

起動時水素注入の概要

「水素注入」とは？

→ 原子炉冷却材に水素を注入することで、炉水の放射線分解で生じた酸化剤(酸素や過酸化水素)との再結合反応を促進して酸化剤濃度を低下させ、水質環境を改善することで応力腐食割れの発生・進展を抑制する技術であり、当社の敦賀1号機、東海第二発電所を含め、国内外の数多くの沸騰水型軽水炉プラントで採用中。

「起動時水素注入」とは？

→ これまでの「水素注入」は、「通常運転時」のみであったが、東海第二発電所では、専用設備を追加し、世界で初めて、「通常運転時」に加え、「起動時」における「水素注入」の実施を可能としたものであり、第19回定期検査後の起動時(2002年12月)から運用を開始。

